

# インタビュー

## 理系分野で活躍する女性をめざすには?

# 第一線で働く“リケジョ”の素顔に大接近!

### 未来のリケジョの皆さんへのメッセージ

大学や企業の研究室で働く、理系の女性研究者。最近では“リケジョ”と呼ばれるほど世間では認知されていますが、実際どんな女性が働いているのでしょうか?そこで、大阪市立大学で活躍する女性研究者にインタビュー。研究者になったきっかけや将来の夢を語っていただきました。

国では理工チャレンジ(リコチャレ)で女子中高生・女子学生の理系分野への選択を応援しています。大阪市立大学では女性研究者支援室を中心に、将来、理系分野の研究者の道へ進みたい女子中高生を応援しています。

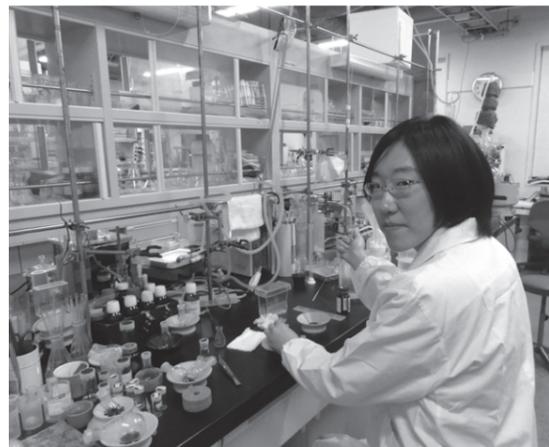


### プロフィール

大阪市立大学大学院理学研究科物質分子系専攻 博士(理学)

保野 陽子 助教

大阪府出身。高校時に化学実験のおもしろさに興味を持ち、慶應義塾大学工学部に進学。大阪市立大学大学院理学研究科後期博士課程修了、2014年から大阪市立大学大学院理学研究科にて博士研究員として従事。2016年より現職。『女子中高生のための関西科学塾』に関わり、科学のおもしろさを女子中高生や保護者の方に伝えている。



## 自然界に存在する化合物をつくりだす研究をおよそ10年

私の専門は「天然物化学」という分野で、自然界の植物や微生物がつくりだす物質(化合物)を人工的につくり、その化合物がどのように機能しているのかを探るという研究です。植物や微生物がつくる化合物の多くはかなり微量で、1%に満たないこともあります。しかし、その化合物は植物や微生物が生きていく上でとても重要な役割を果たしていると考えられています。化合物を人の手でたくさんつくることで、生命の仕組みを理解したり、化合物を使って人々の生活に役に立つことができたら、との思いで研究を続けています。

これまでに、自然界の化合物をヒントに多くの医薬品や農薬、染料などが開発されてきました。研究の成果が、社会貢献へつながればと考えています。

## 自分の背中を押し続けた「楽しい」という気持ち

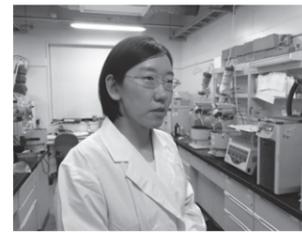
いちばん根底にあるのは「ものづくりが好き」という気持ちです。中学時代はリケジョというわけでもなく、理科が好きだけど社会も好きだし、かといって数学が得意なわけじゃなくて…という(笑)。そんななか、高校2年生の時に出会った化学の先生の授業がとてもおもしろくて、教科書以外のことも教えてくれる楽しい内容で、化学がとても好きになりました。また、手を動かして何かをつくるのが好きだったこともあって、実験がとくに楽しかったですね。作品をつくる「ものづくり」と化学物質をつくる「実験」は、自分の手で何かをつくり出すという点でよく似ています。理系の道へ進むことを決めたのは、その先生との出会いが大きいですね。振り返ってみる

と、高校時代に気づいた自分の「好きなこと」に没頭し、続けてきたからいまの自分につながっているなと思います。

夢は、自分のつくった化合物で、まだ分かっていない生命現象の仕組みを明らかにすること。そして、研究を通じ、願わくば人の健康、そして社会に役立つものをつくることができれば幸いです。



## 性別に関係なく「実験が楽しい」という気持ちを大切に



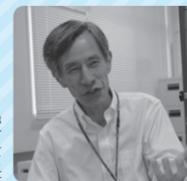
女性研究者は数少ないと言われていますが、現場にいるとどんどん増えてきていると実感します。私がいま、助教を務める研究室でも学生の3人に1人は女性。他の大学でも同世代の女性研究者は多くいらっしゃいます。それに、企業でも活躍の場が多いことが広く知られて

きています。自分で自由にキャリアを選び、いきいきと研究している姿を見るのは女性研究者のひとりとしてうれしいことです。反対に、「私は女性だから、研究者になるのは難しいだろうな」という思い込みであきらめるのはもったいないと思います。研究を続けたいという想があれば、男性も女性も関係ない時代。「実験とか研究っておもしろそう」と思ってくれる女子中高生がいたら、その想いを忘れず大切に育んでもらいたいし、理系のイベントなどに積極的に参加して理系の楽しさをさらに深めていくのもいいと思います。

## 今回の取材には、『女子中高生のための関西科学塾』に関わられている保尊教授と後藤教授にもご同席いただきました。

とくにまだ中学生だと、理系に興味を持ったものの、自分だけで情報収集するのは難しいし、どうすればいいか迷うお子さんも多いと思うので、保護者の方がリードしてあげることも大切だと思います。理系のイベントと一緒に参加すれば、お子さんの興味も引き出せますし、保護者自身も『こういう道もあるのか』という気づきにもつながると思います。

保尊(ホソン)隆享 教授  
大学院理学研究科生物地球系専攻理学博士  
特命副学長



よく保護者の方から、「理系の女性はどうな職業に就き、どれくらいお給料がもらえるんですか?」という質問があるんですが、あまり先々のことを考えすぎると将来への不安ばかりが募り、挑戦する前にあきらめてしまう場合も多いんです。それよりも、『実験が楽しいな』、『理科が好きだな』という想い、好きなことをやり続けるという気持ちが未来を切り拓くのだと思います。

後藤慎介 教授  
大学院理学研究科生物地球系専攻博士  
『女子中高生のための関西科学塾』担当



内閣府男女共同参画局  
理工チャレンジ(リコチャレ)  
<http://www.gender.go.jp/c-challenge/>



大阪市立大学女性研究者支援室  
<http://www.wlb.osaka-cu.ac.jp/>

クレオ大阪のリコチャレ応援セミナーにもどうぞご参加ください。 詳細は11ページ